

2. 日常生活空間の安定した通行機能の確保に向けた課題

冬期における渋滞や事故の発生

凍結危険箇所への消融雪施設の整備や流雪溝の整備により、交通事故の減少や旅行速度が改善されるなど雪に強い通行機能の確保にむけて対策を行ってきたが、冬期になると路面の凍結や堆雪による幅員の減少により、通勤・通学時や降雪時に深刻な渋滞を引き起こしている。

また、交差点や橋梁の取付部などの凍結箇所においては、依然としてスリップ事故が発生している。特に、高齢化の進展に伴って、ドライバーの高齢化も進展しており、安心して走行できる路面管理が必要である。

雪寒事業では、今後とも冬期における凍結危険箇所や交通のボトルネック箇所などの冬期交通の渋滞ポイントの解消を進め、安心・快適な日常生活空間を提供していくことが必要である。

日常生活空間や中心市街地の通行機能の欠如

道路幅員の狭隘な中心市街地内の道路や住民に直結した生活道路においては、車道の雪を堆雪するスペースがなく、幅員の減少によって円滑な通行機能が妨げられている。

特に、これらの道路においては、除雪機械が通行できない幅員の狭い道路も多く、冬期間における走行環境の悪化が著しい。

雪寒事業では、このような道路に対する快適性や利便性の向上に向けた取り組みが必要である。

冬期における救急医療、公共交通への確実性・信頼性の欠如

雪国では、冬期になると渋滞や走行環境の悪化により救急車の遅れやバスの所要到着時間の増大など救急医療、公共交通の確実性・信頼性が低下しており、日常生活へ多大な影響を与えている。

また、バスの所要到着時間の増大に加え、風雪を防ぐことのできない吹きさらしのバス停などにより、公共交通の利便性が一段と低下し、マイカー利用を増加させており、そのことが交通量を増大させ渋滞を増大させている。

このため、冬期における救急医療や公共交通の確実性・信頼性・利便性の向上に向けた取り組みが必要である。

冬期における渋滞や事故の発生

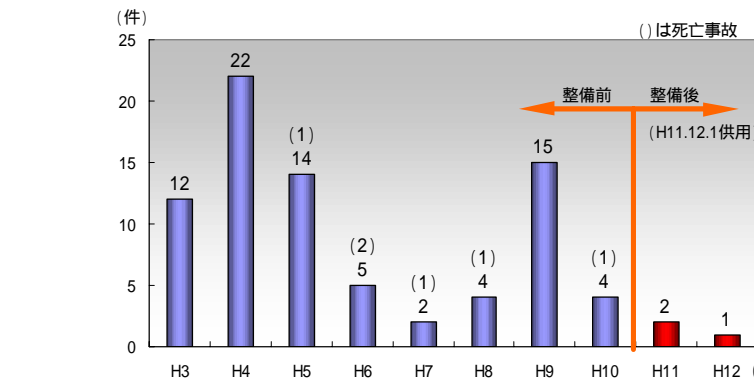


図20 春志内トンネルにおける消融雪施設設備前と整備後との交通事故件数
資料：国土交通省

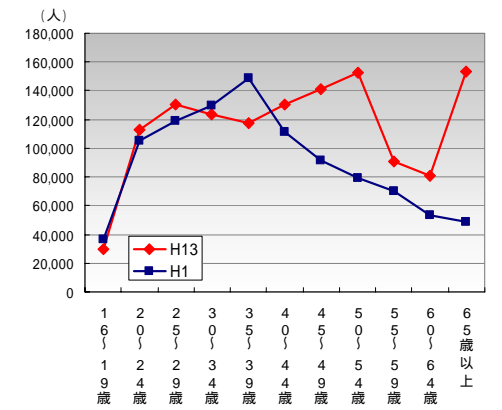


図21 福島県年齢層別免許証保有者数
資料：福島県警察本部

日常生活空間や中心市街地の通行機能の欠如

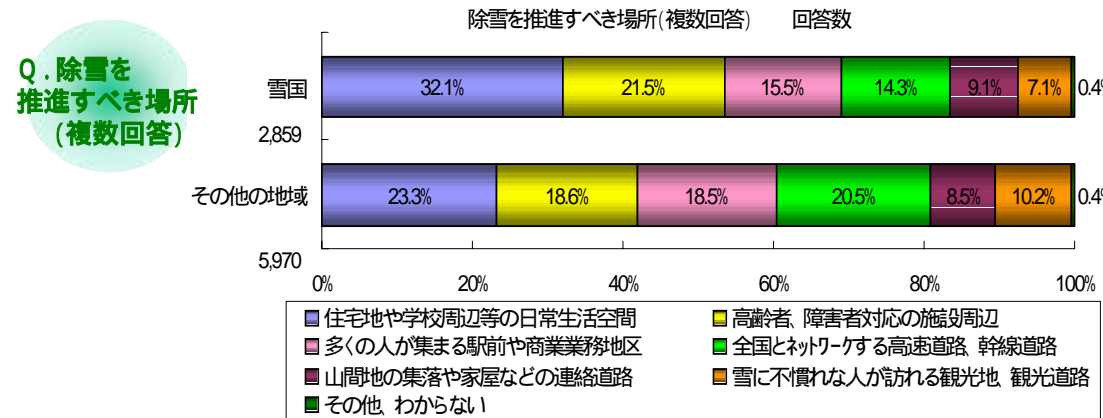


図22 除雪を推進すべき場所 (複数回答) 資料：H13年(社)雪センター



住宅地や学校周辺等の日常生活空間

冬期における救急医療、公共交通への確実性・信頼性の欠如

青森市内におけるバス所要時間の変化

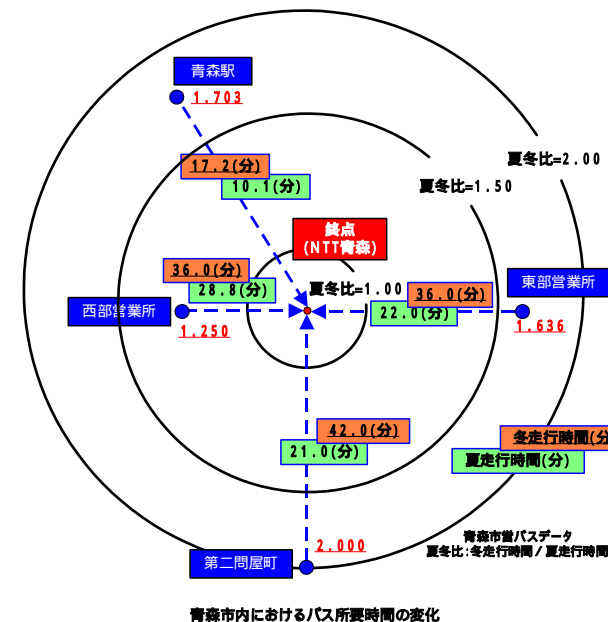


図23 青森市内におけるバス所要時間の変化
資料：H14年国土交通省

血液運搬車に遅れ 診療予約キャンセルも

出典：北陸中日新聞
平成14年1月18日



雪国における自動車への依存度

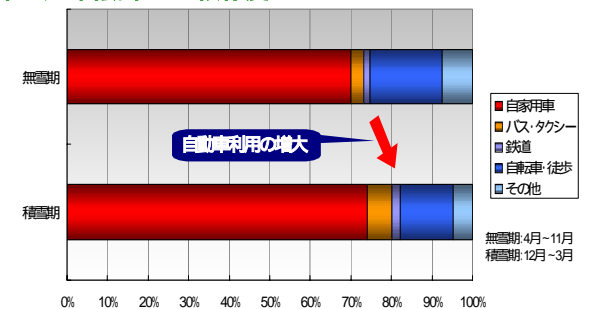


図24 雪国における自動車への依存度
資料：H7年国土交通省